

IDB 沖縄総会へのカウントダウンスタート！

来年四月開催の米州開発銀行（IDB）沖縄総会まで、いよいよ残り一年をきりました。そこで今回は、沖縄総会を盛り上げるために行っている主な取り組みのうち、最近のものをご紹介します。



点灯式



県知事主催レセプションの様子



リマ市にある国立博物館

今年のIDB・IIC年次総会は、リマ市の国立博物館で三月二十九～三十一日にかけて開催されました。IDBに加盟している全四十六カ国から財務大臣、中央銀行総裁、金融関係者、報道関係者等約五千人が参加し、日本からは山本副大臣をはじめとする政府代表団の他、次回総会開催地のPR活動のために、沖縄からも稻嶺沖縄県知事を団長とする歓迎団と奥山IDB沖縄総会開催実行委員会事務局長を団長とする調査団の総勢六十四名が総会に参加しました。

IDBリマ総会

成功に向けて県民挙げた取り組みを呼び掛けました。

去る四月九日、IDB総会開催を一年後に控え、県庁一階の県民ホールに残暦盤が設置され、点灯式が行われました。沖縄総合事務局からは、竹林局長が出席し、稻嶺県知事、仲井真沖縄県商工会議所連合会会長、小禄沖縄観光コンベンションビューロー会長、松本沖縄懇談会代表幹事と共に点灯式のスイッチを押しました。稻嶺知事は挨拶の中で、沖縄をPRする絶好の機会だとして、

残暦盤点灯式 (カウントダウン)

山本副大臣は総務演説の最後に日本系人が日本と中南米地域の掛け橋となつて中南米各国の経済社会発展に貢献してきた点について触れ、「南国沖縄で来年四月に皆様方と再会できることを中心より楽しみにしてあります。」と演説を結んで、総会参加者に次年度開催地沖縄をアピールしました。総会会場の入口付近には、次年度開催地である沖縄PRのためのブースが設けられ、会場に出入りする人々の目を引きました。二十九日に行われたオープニングセレモニーでは、琉球舞踊や獅子舞の演舞が披露された他、集まつた人々に



総務演説を行う山本副大臣

の方々に広く理解して頂けるよう、七月には一般公開セミナーを開催する予定です（開催地未定）。サミットに続く最大規模の国際会議であるIDB沖縄総会の成功は、今後、沖縄に国際交流拠点としての地位を定着させ、コンベンションアイランドとしての更なる発展をもたらすと期待されています。

総会を成功に導くためにも、多くの方々のより一層の協力が不可欠になってしまいます。



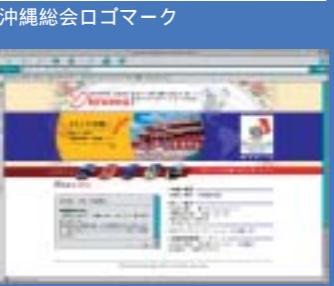
沖縄PRブース

今後の取り組み

会議まで一年弱となり、総会へのカウントダウンも始まりました。これから本格的に沖縄におけるIDB総会開催に向けて準備が進んで行きます。五月にはイグレシアスIDB総裁が訪沖された他、IDBの役割や沖縄から見る国際交流・人的貢献の意義等を県民

泡盛が振舞われました。アジアからの唯一の加盟国である日本での開催は、前回の名古屋総会から数えて十四年ぶりになります。異国、沖縄に対する人々の関心は非常に高く、それは三十日に開催されたセミナー、同日夕方行われた県知事主催の歓迎セレブションの盛況振りからも伺えました。

IDB沖縄ロゴマーク決定



総会に先立つ3月5日、沖縄総会のロゴマークが決定しました。IDB沖縄総会のロゴマークは「シーサー」がモチーフになっており、アジアの中の沖縄で行われる会議であることが一目で認識できるように表現されています。このシーサーを総会のロゴとして力強く描くことで沖縄総会の重厚感を演出し、またシーサーから発せられる炎はIDB総会の主役である南北アメリカ大陸を表しています。沖縄の守り神「シーサー」が会議の無事を見守り、成功へ導くよう願いが込められています。シーサーの左下はIDB（米州開発銀行）右下はIIC（米州投資公社）のロゴマークとなっており、英文字は「年次総会」と記されています。

ロゴマークとあわせてIDB沖縄総会のHPも完成しました。こちらもあわせて御覧下さい。

<http://www.idb-okinawa2005.jp/>